

① NPO ロジスト [んぼろじすと]

NPO ロジ(学)の学者。特に解説の必要は無いと思われるので以下に省略するが、NPO の世界では、ややもするとアカデミズムの理論が現実より先行(理論先行)しがちな傾向があります。学問のフィルターを通して現実を見ると、全く違った見え方がするので不思議です。

② NPO んつあん [んぼんつあん]

都市部の機能的結び付きの強い NPO とは対照的に、郡部では『構』に代表されるような伝統的地縁型 NPO があり、その担い手・世話人を特に東北石巻地方ではこう呼ぶ。その率直さで地域の信望も厚く、NPO イストはまさにこれが伝統的日本型の地域 NPO と指摘するが、当人は自分の役割や働きが実は NPO と呼ばれるものに該当するなどは全く考えたこともない。

③ マーチャ NPO

[まーちゃんぽ]

NPO の名を借りて、しっかりビジネスを展開する株式会社の NPO を運営する人のこと。非営利と営利の境目は利益の分配があるかないかで決まるのであり、設立の真の動機が公益的使命感に基づいているかどうかということ、外から透かして見ることは不可能。マーチャ NPO はそこを巧みに突いて、チャッカリと商いをする訳です。

④ ビューロクラ NPO

[びゅーろくらんぽ]

財政逼迫の背景の中で、行政が NPO に注目を寄せているが、NPO を所轄する行政部局の担当官のことをこう呼ぶ。協働というコンセプトの下に、行政が NPO を利用したり、また NPO が行政を利用したりする。その間隙を突いてマーチャ NPO が商売をする。狐と狸の…。さて軍配はどちらに？ 頑張れ NPO !

⑤ NPO 男 [んぼお]

複数の NPO 団体に所属し、やたらに「忙しそうに」活動する40代以降の男性層。否応なく忙しくなっているように見せたがるが、結構自ら進んで忙しくなっていることが多い。中には長年の活動のため、社会参加に対する緊張感をすっかり失い、理事会や委員会の日程をちよくちよく失念する者もいる。NPO タリアンほど群れを成さず、敵に回した場合の怖さも無いが、結構根に持つタイプも多い。

⑥ NPO タリアン [んぼたりあん]

NPO 活動に熱心な中高年女性層のこと。少し前に「オバタリアン」と呼ばれた層とデモグラフィックな特性が重なる。自ら使命感を抱いて NPO に参画するというより、周囲の友人関係や人間関係にひきずられて…という場合が多い。24 時間テレビの黄色い T シャツの中に典型的な事例を見出すことができる。たまごっちの派生語。

⑦ NPO ラー [んぼらー]

ボランティア活動をする若者。強烈な使命感を持って活動する場合よりも、軽いノリで NPO 活動をする場合に使われる。この若者たちは音楽を聞いたり、ブランド品を身につけたりするのと同様の次元で NPO を捉えている。こっぴどくよりもやや主体的な傾向がうかがえる。シャネラー、アムラー等が転じた呼称。

NPO 論楽

～コトバに見る NPO～

『NPO 論楽』と題したこのコーナーは、とかく難しくなりがちな NPO の論議を、やさしく解きほぐしながら「論を楽しむ」コーナーです。

今回は NPO オタク系専門用語(!?) に焦点をあてています。流行語あり派生語あり、ちょっと懐かしいものあり。思わず、「これってまさにあの人のこと～！」と唸ってしまうこと間違いなし！あなたは何人思い浮かびますか？



編集後記

「夏の号」なのに、秋口の発行となってしまったことをお詫び申し上げます。

本号は矢本の「蔵しっくパーク」の管理運営を受託したことを受けて、大膽に矢本を特集してみました。管理運営の受託と言え、ホテル業界では管理運営受託の方式でチェーン展開を

することをヒルトン方式と言います。あのヒルトンホテルの海外部門がこの方式で全世界にチェーン展開したためこう呼ばれるのだそうです。いしのまき NPO センターもどんどんノウハウを蓄積して、管理運営の石巻方式を確立したいものです。

時々、「不真面目」「ふざけすぎ」の指摘を頂戴する NPO 論学の欄は、今回も「不謹慎」と非難を受けそうな内容になってしまいました。NPO が実に多様な人々の参画によって成立していることをお伝えしたいという趣旨と受け止めていただければと思います。(S・O)



いしのまき NPO センター logo and text: 人々が北上川の流れに乗って新しい時代の始まりを予感し、協力し合いながら前進しようとする姿を小さな芽に見立てています。

育む 集う 結ぶ むうぶ

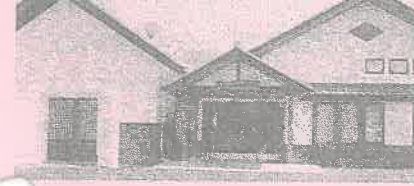
発行 特定非営利活動法人 いしのまき NPO センター 連絡先 〒986-0832 宮城県石巻市泉町3丁目1-63 TEL/FAX 0225-23-0851 Eメール npo@i-port.ne.jp ホームページアドレス www.i-port.ne.jp/npo/

2004年 夏 第7号

* 祝 * 「蔵しっくパーク」オープン いしのまき NPO センター 専務理事 木村 正樹

今年5月末と7月初めに、矢本町内を走る国道45号線沿いに住民活動を支援する施設があいついでオープンしました。広い敷地内には新旧ふたつの施設と日本庭園が混在する空間(通称 蔵しっくパーク)が整備されています。

この施設は、平成12年8月に、「旧櫻井酒造店」の土地と建物が矢本町へ寄贈されたことから始まります。それ以来、町役場ではその利活用について役場職員や外部コンサルなどと一緒に、住民参加によるシンポジウムなどの方法で調査・検討を重ねてきました。施設は、もともと造り酒屋の店舗・居宅・蔵・庭園などがあり、その活かし方や利用の方法には、制約や制限などもありましたが、さまざまな提案や議論を経るなかで、平成14年度には「旧櫻井酒造店跡地活用基本計画」が策定され、その基本コンセプトを「もてなしと交流拠点」と位置づけました。



矢本ふれ愛情報プラザ

これを受けて、国道45号線に面する大型の蔵や旧国道側の石積みの蔵等については、総務省の補助を利用して、ITを活用した障害者や高齢者にも対応できる施設整備をすることになりました。それ以外の母屋及び庭園については、国の補助対象からはずれたこともあり独自に「歴史的資産の保存・継承」を基本とした住民同士の交流の場、町内はもとより石巻広域圏の情報発信の拠点などといった多様な機能を併せ持つ「複合施設」として整備することになりました。

それぞれの施設の特徴は、「矢本ふれ愛情報プラザ」は、総務省の、「IT生きがい・ふれあい支援センター施設整備事業」の補助金を受けて整備された施設で、障害者・高齢者に最適なバリアフリー環境を整備し、

障害者対応の情報機器や高齢者にも扱いやすいパソコンを設置した施設です。ここでは、就労支援としてテレワーク事業を展開し、生きがい対策や地域での雇用創出を目指しながら、情報通信技術を活用した新しい地域交流を実現しようとする施設です。

もうひとつの施設「矢本ひと・まち交流館」は、旧櫻井酒造店の母屋と日本庭園をそのままの形を継承して保存し、住民の活動や交流の場として提供しようという施設です。母屋の和室や土間の空間、さらには



矢本ひと・まち交流館

日本庭園を活用した、さまざまな活動に利用可能です。さいわい国庫補助などを受けないため、施設利用にあたっては自由に活用できることが魅力で、中心商店街にも近いことから、さまざまな実験的な試みも考えられます。

この施設整備のもうひとつの特徴は、ハード面の整備と同時に、施設利用の事業内容や管理運営の方法を地域住民と一緒に検討しながらソフト面の整備も進めてきたことです。当面は、「いしのまき NPO センター」が管理運営のお手伝いをするようになりますが、将来的には、矢本の人達を中心とした NPO を立ち上げて運営の主体となることが望まれます。いしのまき NPO センターとしても、石巻市 NPO 支援オフィスの管理運営で培ったノウハウを活かした事業展開を目指して行きますので、多くの方の見学や利用をお待ちしています。



蔵しっくパーク正面玄関

育む incubate 集う communicate 結ぶ network 新しい時代の胎動をNPOがつくるという思いを込めて… むうぶ

地域コミュニティと NPO 活動

(特活) いしのまき NPO センター
理事 佐藤正己

平成 15 年 7 月 26 日、震度6の地震が一日に 3 回も発生するという過去に例を見ない地震が襲い、甚大な被害を受けてから早くも一年が過ぎました。

これまでは行政やお金で動く企業を頼りにし、平和に生活してきましたが、地震を経験した私たちは、大きな地震災害時には行政や企業は来てくれず、頼りは隣り近所で「地域社会、地域コミュニティがいかに頼りになるか、大切な、必要か」を思い知らされました。

また、日常生活においても少子高齢化問題、資源と地球環境問題、過疎と過密問題など社会的問題の解決も、私たちの求める「より豊かな社会生活」が行政や企業だけに頼っては実現できないことをも感じてきています。

例えば「高齢化の問題」一つ取り上げても住民が願っている「人間的で行き届いたサービスの提供」は行政や企業では手に余ることは明らかです。とはいっても個人や家族で出来ることには限界があることもはっきりしています。

また、地域の小さな公園一つとっても、私たちが求める生き生きとした場にならず、紋切り型の生気のない場所になりがちです。

一方私たちも、年金生活者が多くなり「生き甲斐のある生活」「他人まかせでない生活、自分自身の手による生活」を望むなど、従来とは異なる価値観に基づいた生活を求めるようになってきています。それと共に、自らの手で自分の願いを実現するには、今の社会は大変扱いにくい仕組みになっていることに気が付き始めています。

これまでの行政と企業に加えて「住民を中心とする第三のセクター勢力が必要ではないか」という考え方が台頭し「住民主体の生活は、住民自らの手で行なうほかはない」という考えが人々の共通した思いとなってきています。

一人一人のボランティアな気持ちが集まって「誰かのために、何か地域のために役立ちたい」と願う自発的な行動が、仲間たちとの組織的な行動になり(これを NPO 活動という)地域に広がりやがて目に見える成果が生まれることで、NPO 活動は大きく成長し、各地で活発に活動しています。

一口に NPO 活動と言っても「生活基盤となる都市の規模や生活条件」によって大きく異なります。例えば石巻市においては、活動の場や事務局スペースの確保が大きな

問題となりますが、矢本町ではコミュニティセンターはじめ公民館、集会所などの活動スペースは十分確保されており、矢本地区の課題は運営スタッフの育成、広範なネットワーク化のための手法の学習(アドバイス、コンサルテング)など、ソフト面のニーズが重視されます。

今年、旧櫻井酒造店跡地に開館した「矢本ひと・まち交流館」「矢本ふれ愛情報プラザ」(通称 蔵っくパーク)は矢本地区のこのような流れ、住民要望を受けて設置された、公設民営の施設であり、いしのまき NPO センターが矢本町より委託を受けて運営しています。一度出かけてみてはいかがでしょうか。

今年 7 月の日本人の平均寿命は、女 85.23 歳、男 78.32 歳と厚生労働省から発表されました。このことは 60 歳以降の人生生活が 20 年間以上あり、核家族化現象がますます進んでいる状況と併せ考えるならば、自己実現の為の仲間づくり、自ら楽しみながら「みんなのこと、公共のこと」に参加する人生設計が必要ではありますまいか。

個人の多様化するライフスタイルに合った多種多様な集団、NPO をみんなで創ることによって、「公共のこと、みんなのこと」は「仕え奉る」の上下関係から住民が自主的に「参加する」並列の関係に変わっていきます。

今後の社会においては、行政だけでは十分に対応できない様々な社会的問題を自らのこととして受け止めた上で、解決のために自発的に活動していくことが私たち住民に求められます。地域の生活者としての個人が「みんなのこと」は「自分のこと」として、「社会に自発的に参加し、貢献し、提案する」住民へと変わり、新しい社会変革の原動力になって行くための住民参加の施設として「矢本ひと・まち交流館」「矢本ふれ愛情報プラザ」を多くの町民が利用活用することが期待されます。



佐藤正己(さとうまさみ)
矢本町赤井在住
矢本町鳴瀬町合併協議会委員
矢本町統計調査推進協議会会長
などに就き地域のために活動中

◎おすすめ本◎

「NPO の活用と実践」
著者 大川新人(おおかわ あらと)
発行 日本地域社会研究所
皆の力で家、町、コミュニティーを作る方法、ヒト、モノ、カネを上手に動かす方法を説いています。石巻市 NPO 支援オフィスにて貸出し中!



シリーズ 人が支える NPO ⑦

くみちゃんの おじゃましま〜す!!

今回は蔵っくパークを紹介します。なんという自画自賛、6月から蔵っくパーク勤務なのです…

1 ページでは蔵っくパークの設立経過や構想を紹介しましたので、ここでは内側に迫っていきます。

蔵っくパーク(略して蔵っば)は始動段階から多くの人に支えられています。施設の利活用に関して、住民や役場職員を巻き込んだ設立準備委員会が数多く開催され、検討が重ねられました。蔵っば開館後は「応援隊」として色々なアイデアを提案してくださっています。

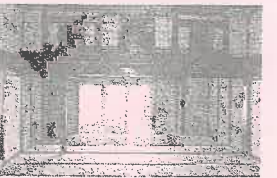
「応援隊」には様々な年代の、様々な職業の方がいます。中でも T・A さんは、こちらがアツと驚き、そして嬉しくなるような事、どんどん実行してくれます。ある日「スタッフでお揃いの T シャツを作りましょう」と、手作りキットを持って登場! 連帯感という大きな繋がりをスタッフにプレゼントしてくれました。また、ある日は夏休みの子供達を対象に手作り工房を開催。豊かな発想を惜し気もなく子供たちに分け与えてくださいました。



蔵っば蔵部の様子
大人も子供も思わず熱中
します。

交流館では「蔵っば蔵部」というミニ教室を開催しています。これまでにピーズや押し花、ネクタイリフォームなどを開催しました。受講者は材料費を負担するだけなので、交流館を訪れたついでに参加できるような気軽な形式になっています。ここでは専門の方はもちろん、特技を誰かに伝えたい方ならどなたでも「先生」になれます。この教室のさらに変わっている点は教えてくださる先生方に謝礼が出ないところです。謝礼が出ないだけに留まらず、なんと先生からは少額ですが、場所代を回収してしまう かわ〜い システムになっています。ところが、一度先生を経験してみると、受講者からの感謝の言葉や大きな笑顔になんとも言えない満足感が沸くようです。ここに蔵っば蔵部本来の目的があります。お金のためだけでなく純粋に誰かのためになれる喜びを味わうことができるので

す。ちょっと大袈裟ですが「蔵っば蔵部」は皆が少しずつ何かを持ち寄ることで大きな幸せを分かち合える理想的な社会の縮図のようです! 今のところ、こちらから声をかけて先生を探している状態ですが、将来的には、逆に、先生からの申し込みを受けて開催する形に育てるのが目標です。



交流館自慢の大広間

交流館の使用料は 1 回の利用につき 4 時間までで、6 畳間が 300 円、30 畳間が 1000 円です。営利目的の場合や矢本町外に活動拠点を置く団体の場合は通常料金の 2 倍となります。詳細はお問合せください。



1 時間まで無料のインターネットコーナー

情報プラザでは様々なパソコン研修会を企画する他、公民館等からの講座開催依頼にも対応しています。ユニークな点は 55 歳以上が対象となる講座の場合に「パソコンボランティア」が活躍するところです。総勢 21 名で応援隊に匹敵する幅広い層の方々によって構成されています。中には車イスでボランティアに駆けつけてくださる方もいます。少数の講師では賅いきれないキメ細やかな対応をボランティアが提供し、講師はボランティアに勉強会を行う、お互いを支えあう仕組みになっています。

ふれ愛情報プラザにはインターネットコーナーの他、珍しい機器も設備されています。ガラスのテーブルがパソコンになっているメディアテーブル、入力すると 3 次元グラフィックで手話アニメが登場する手話用パソコン、大きな画面とキーボードの高齢者用パソコン、画面を音声で読み上げてくれる視覚障害者用パソコンなどなど。機器により使用料が掛かりますが他にはない無い設備です。体験してみませんか? お問合せお待ちしております!(交流館、情報プラザとも月曜日が休館です。)



パソコン講習会
シニア講座